

ユニオンガールズ
TALK
No.9

からさわ しのぶ
唐澤 忍さん

連合群馬女性委員会 幹事
日教組 群馬県教職員組合 書記次長



一男女共同参画を考えると

今は女性の管理職を増やそうと数字ばかりに拘っていますよね。昔から思うのは何事も性別で分ける必要もなく、例えば力がある女性もいれば、力がない男性もいる。環境の変化は出産・育児だけではなく、病気や体調が悪かったりする人もいます。家庭でも仕事でも、向き不向きもあるし、そこは特性や能力を活かし周りの皆が理解しながら取り組めればいいですよね。“男女平等参画”という言葉がなくなるくらいに共存できる社会ができるのが理想でしょうか。

性別ではなく、個人の特性を活かして取り組めれば

一県教組の専従までのお話し聞かせてください

実は教員になる前は世界各国を回り、今では累計60回以上の旅をしています。異文化を体験したり、世界中の人々との関わりを持つことで精神的にそして視野も広がりました。あまりの“放浪ぶり”に心配した教員でもあった母親が、そろそろ定職に…。との助言から、中学校の教師を目指しました。採用1年目より担任を持つことになりましたが、新米だろうと容赦はありません。部活動や生徒の相談に乗った後、次の日の授業の教材づくりや教室に戻ってデモ授業。連日深夜の帰宅で、疲労もピーク。運転中に踏切の手前で、遮断機にぶつかり、目の前を電車が通り過ぎて「ハッ」と我を取り戻した恐ろしい経験もしました。そんな激務の中、周りの先生のサポートや愛あるご指導を受けながら働くことができ、特別な声掛けや取り組みがなくても、自然に組合員加入し、そして労組役員に。今年の4月から専従として群馬県教職員組合の書記次長に就任しました。

一就任されてどうですか？

女性専従ということもあり女性部の担当として、全国や関東ブロックで開催される会議や研究会への派遣や、県教組で主催する研究会や、各種の行動、イベントに向けた会議などを行っています。また、中・北毛総支部長でもあり、昨年より支部女性部が計画する行事となった「フラワーアレンジメントと茶和会」では、気軽に親睦を深めるイベントとなるように、組合員はもちろん、これまでの人脈をいかしつつ後輩など加入していない教職員への参加も促し、楽しみながら日頃の情報交換を行い、魅力ある組合活動のPRにも努めています。

一先月の先進企業訪問どうでしたか

会社は部署があり、適材適所で改革を行っていることが分かりました。例えば職場内での面談を行い、職場環境、働き方の改善を目指し、業務改善を行いながら質が低下しないように取り組んでいることに関心を持ちました。企業はなんといつても利益を出さなければ、企業の存続が危ぶまれる。ここは教職員とは違う目線です。

自分たちの職場の働く権利や制度は、これまでの諸先輩方の長年の努力で整っているのは事実です。その制度を当たり前だと思わず、今起きている、長時間労働の問題や事務効率化に係るIT化など問題解決のために、教職員が一丸となって改革を進めて行きたいです。

一お休みの過ごし方は

動物と子どもが好きで、家では愛猫と過ごし、海外でもスキューバをして魚やイルカに癒やされていました。中学校の教員になったのも、子どもから大人に成長する果敢なこの時期の子どもと関わりたかったということがあって…。でも今はなかなか長期の休みは取得しづらいので、自宅の近くの乗馬クラブに行き、馬に乗っています（写真下）。馬はとても利口で乗り手の力量を判断して動きます。よく見ています。なんか生徒と一緒にだなあ、なんて思って奥深さがたまらないです。まあ、かわいいというのが一番なのですが…。

そして、9月には連合関東ブロックチャンピオン視察団に参加させていただきます。またいろいろな経験してきますね。

Listener 吉田 香苗

※トップ写真は教え子の卒業式に愛猫「ラムセス」とのコマ



“ユースラリー関東版”に向け思い一つ！

☆埼玉青年委員会と交流☆

6月17日(土)～18日(日)水上ホテル聚楽において、連合群馬と連合埼玉の青年委員会は組織の枠を越えた仲間づくりを目的に交流会を開催し、役員11名が参加しました。

初めに、青年海外協力隊群馬県



埼玉青年委員へ上毛かるたで群馬の魅力PR

OB会の山口朗事務局長（東電労組）から、南米へ赴任した際の体験談を伺い、「見聞を広めることは自分自身の大きな財産となる。積極的に色々なことに取り組んでほしい」とアドバイスを受けました。その後、『上毛かるた』やパラスポーツ『ボツ



チャ』で交流を深めました。

また、今後の青年活動の更なる活性化に向けて、青年組合員の行事への参加率向上や、近畿ブロックが開催している青年組合員の交流・学習の場である「ユースラリー」について、関東ブロックでの実現を目指した意見交換を行い、課題を共有しました。

2日間の交流を終えて群馬の加藤青年委員長から「自分たちとは違う視点からの意見を聴け、大変有意義だった。関東ブロックユースラリーを実現するには、いろいろな問題をクリアしなければならないが、埼玉と群馬でガッチリと協力して進めて行きたい」と挨拶がありました。



思いを一つに握手（左：佐藤委員長 右：加藤委員長）